

令和6年度第1回 静岡市図書館協議会会議録

1 日 時 令和6年7月26日(金)午前10時～12時

2 場 所 静岡市立中央図書館 2階 ホール

3 出席者 (委員)那珂会長、豊田副会長、伊澤委員、加藤委員、清俊之委員、清尚子委員、宗野委員、千頭和委員、堀川委員、森委員
(事務局)本野教育局次長、望月中央図書館長、伊藤中央図書館副館長兼管理係長、照内中央図書館サービス係長、高田御幸町図書館長、田島西奈図書館長、田中薫科図書館長、佐藤南部図書館長、内田長田図書館長、鎌田清水中央図書館長、杉山清水興津図書館長、杉山蒲原図書館長、川口中央図書館麻機分館主査(再)、下嶋中央図書館美和分館主任主事、井柳中央図書館サービス係主査、坂下同主査(再)、大橋同会計年度任用職員

4 傍聴者 5人

5 議 題 (1)令和5年度事業報告
(2)令和6年度事業計画
(3)電子図書館の利用状況について
(4)薫科図書館リニューアルオープンについて
(5)図書館の将来ビジョンについて

6 会議内容

(1)令和5年度事業報告

事務局(サービス係長) 令和5年度の事業報告と令和6年度の事業計画について、中央図書館からまとめてご説明いたします。

まず、令和5年度事業報告についてご説明します。令和5年度の統計数値ですが年報『静岡市の図書館 令和6年度版』30ページから記載がございます。

32ページの上段の(4)の表は、全館の数値を合計した利用状況の推移ですが、令和4年度から令和5年度にかけては、薫科図書館が大規模改修工事により11ヶ月以上に渡り休館していたことと、図書館システムの更新により2月に2週間全館が休館したことが数値に影響し、貸出者数や貸出点数が減っています。貸出点数の減少について

は、システム更新により、3月分からカウントの仕方に変更があったことも影響していると思われます。とは言え、入館者数は増えており、はっきりした原因は不明ですが、コロナ禍が明けたことで、図書館で勉強したり、新聞等資料を閲覧したりする方が増えてきたという印象はあります。

35 ページの下段に電子図書館及び電子申請による利用者登録についても記載しました。こちらは、令和5年度はわずか1か月の稼働ですので、利用状況の検討等は今年度以降に実施していきます。

41 ページをご覧ください。図書館のサービス指標のうち、登録率の微減が続いております。電子図書館の導入による新規の利用者獲得など、登録率を少しでも改善できればと考えています。

次に、令和5年度に行った事業について説明します。主要事業として、年報6ページの年表の令和5年4月以降をご覧ください。大きな事業としては、薬科図書館の大規模改修工事を行いました。昨年度5月1日から休館し、今年度、4月20日に無事にリニューアルオープンしました。薬科図書館の大規模改修については、後ほど薬科図書館長からご説明いたします。

もうひとつ、静岡市立図書館全体として、今年の3月1日に図書館システムの更新を行い、同時に電子図書館を開設しました。こちらの電子図書館の利用状況等についても、後ほどご説明いたします。

各館が行った事業につきましては、年報の51ページ以降をご覧ください。昨年度のこの図書館協議会で、大人向け・高齢者向けの事業や、郷土に関する講座等について、開催のご提案をいただいておりますので、各館でいくつか実施いたしました。

その中で、南部図書館で行った取り組みをご紹介します。年報の54ページ、南部図書館の表のうち「その他」欄の一番上、「認知症にやさしい図書館」事業をご覧ください。6月に職員全員が「認知症サポーター養成講座」を受講し認知症サポーターとして活動、9月の「世界アルツハイマー月間」の際に展示を行い、10月には認知症に関する資料や図書を集めた「認知症にやさしい図書館の『オレンジの棚』」という常設コーナーを新設しました。「オレンジの棚」は利用者の関心が高く、大変多くの方に利用されています。こちらについては、別紙の「資料1」、令和5年度世界アルツハイマーデー&月間取組事例報告シートも参考までにご覧ください。

もうひとつ、南部図書館の事業を紹介します。年報54ページ、同じ南部図書館の表のうち「イベント」欄の下から3つ目、出前講座「人間国宝・芹沢銈介の魅力」をご覧ください。こちらは、「郷土を学ぶ講座」として実施しました。南部図書館では、令和4年度に開設した登呂遺跡コーナーに続き、令和5年度に「芹沢銈介コーナー」を新設したことに

に伴い、人間国宝・芹沢銈介の魅力を芹沢銈介美術館の学芸員が講演し、しおりづくりのワークショップを行いました。

そのほかの各館の事業は、51 ページから 56 ページまでをご覧ください。

今後も、幅広い年代の方に図書館をご利用いただけるよう、各図書館で工夫して事業を実施してまいります。

(2)令和 6 年度事業計画

事務局（サービス係長） 引き続き、令和6年度事業計画を説明いたします。

今年度は藁科図書館がリニューアルオープンいたしました。そのほかでは、今年度の10月から、移動図書館が新たに清水のベッドルーム駐車場に巡回いたします。これは、水見色小学校の閉校及び藁科図書館への臨時運行の終了に伴い、金曜日の午後の訪問予定が空いたことから、かねてから検討していた清水地区への運行を行うものです。

各館で行う事業予定については、年報 58 ページ以降に掲載しておりますが、なかでも 59 ページの御幸町図書館の表をご覧ください。

今年度、御幸町図書館は開館 20 周年を迎えることから、記念事業を多数開催予定です。特に、静岡市歴史博物館といくつか連携イベントを行う予定でおります。今回の周年記念イベントの開催により、地域の方々に静岡市の歴史に興味と関心を持っていただく機会を提供し、今後も、歴史博物館との連携を拡充していく体制を構築していきたいと考えています。

歴史に関する事業だけでなく、各ジャンル、児童・YA・多言語、ビジネス、医と健康、それぞれの周年記念イベントを開催いたします。また、開館月である9月の1ヶ月間、市役所職員約 9,000 人の職員名札によるPR、周年記念デザインののぼり旗によるPRも行う予定でございまして、利用者への感謝を伝えるとともに、更なる図書館の利用促進に繋がっていかうと考えています。

そのほかの各館の事業予定は、58 ページから 63 ページまでをご覧ください。

以上で、令和6年度の事業計画の説明を終わります。

那珂会長 ただいまご説明いただいた事業報告および事業計画の説明に対して、委員の皆様方からの意見や質問等をお願いいたします。

堀川委員 41 ページの図書館サービス指標の中で説明があった登録率が年々減少しているという状況は、これを見てわかると思いますが、この分析はどのようなのでしょうか。例えば年代別に、幼児、小中学生、高校生、大学生、20代 30代、40代、50代、70代くらいまでですね、そういったところの登録率はどうなっているのかとか、あるいは分館ごとの登録率

がどうなっているかとか、あとは地区別とかですね。そういったところの分析はどのような形なのでしょうか。

事務局（サービス係長） 年報には詳しく載せてはおりませんが、図書館として各種統計は取っていきまして、まず登録率、利用率については、やはり10代が落ち込んでいるのは顕著になっています。中高校生の利用が伸び悩むという傾向がずっと続いております。30代以降になりますと、一定程度回復というか、増えてきているというような形になっています。このことから、児童サービスのところから継続して図書館を利用していただくような施策を今後取り入れていただかなければいけないと思っています。

この後説明しますが、電子図書館で、小中学校との連携を今後開始します。この事業は小中学生への図書館のPRも兼ねており、そこで図書館に触れた子が年代を重ねても利用してもらえるような取り組みを続けていければと思っています。

すぐにすぐ回復することではないですが、3年後、5年後、10年後にその年代での利用が増えているよう、取り組みを始めているところです。

各館の登録者数、入館者数等については、32ページ以降に、各図書館の数値を載せてあります。

30ページの上から二つ目に登録者数があります。こちらは、各館がどの程度の登録者、新規登録等を行っているかという数値です。一番多いのが南部図書館で、その次が中央図書館です。経年のものはありませんが、過去の年報と照らし合わせれば、年間どの程度の推移があるかは見られるようになっていきます。単純な入館者数等々は、32ページから各館の推計も出ておりますので、そういうところから細かく各館で、見ているところではありますが、随時いろいろな取り組みをして、利用者の満足度を上げてリピーターを増やす、あるいは新規の獲得を目指す、そういうことを念頭に置いて各事業に取り組んでいければと思っています。

堀川委員 人口自体が減っているわけですね。だから当然、登録者数が減っていくことはある程度考えられるんですけども、ただ登録率というのは、その地域に住む人、あるいは分館で利用する人たちに対してのニーズになるわけですから、そこが上がっていくことは考えられるわけですね。そこら辺のところ、具体的に分館の登録率っていうものを出さなければいけないと思いますし、年代別のものが出ているのであれば、それをもっと分析に使って、どういう形の施策を行っていくのか、特に私が思うには、より多くの市民が図書館を利用するような利用拡大の施策っていうものを各分館ごとに行ってもらいたいというのが一番大きなことです。

そのためには、歴史博物館との連携とかもありましたけれども、例えば社会福祉協議会ですとか、地区の自治会だとか、老人会ですとか子ども会ですとか、いろんな連携する場所はあると思います。あとは民間の関連施設とか団体ですとか、そういうところとの連携を図りながら、新たに図書館を利用する人たちを増やしていくような施策をぜひやっていただきたいと思います。

宗野委員 後で説明する可能性がありますが、電子図書が3月に始まったところで、年代別にどういう人たちが登録してどのぐらい借りているかという資料が今あるのか、今後出すのか、後で説明するのか、また教えていただければと思います。

事務局（サービス係長） この後の報告事項の次にお話しますが、先に資料2-1「電子図書館の利用状況について」をご覧ください。また、資料2-2はアンケート結果です。アンケート(1)で年代をお聞きしました。157件とあまり多くない回答数の利用統計になります。もちろん利用については随時統計を確認しておりますが、大きな変動はなく、やはり30代から50代の方の利用が多い傾向です。これは今も継続しています。

アンケートの時期は3月から4月ですが、6月、7月も同じような傾向で、やはり10代がちょっと少なく、電子図書館について10代の方に対し周知不足は否めないところではあります。まだ利用が少ないので、学校連携を通じてまずは児童生徒への普及を図っていければと思っているところです。

伊澤委員 私は私立の保育園長会から来ています。乳幼児期から絵本とか活字とかに触れる重要性はすごく高いですが、今特におうちの方が忙しいので、ゆったりした読み聞かせとか、絵本をおうちで読むということが減っています。

園の中でもICTを進めているところがありますので、先ほど堀川さんがおっしゃったように、民間との連携というところで、私達私立の保育園の方もできれば仲間に入れていただければうれしいなと思いましたので、よろしくお願いします。

千頭和委員 市の機関でいろんな団体がありますね。例えば、私は西部にいますが、西部生涯学習センターがあります。そういうところに図書館の出店みたいなものを作ったり、他にも社会何とかセンターだったらどこにもありますが、まず自分たちの手がすぐ届くところを利用してやっていくことがすごく大切だなと思います。何のバスに乗ってくれば図書館に行きますよというふうになりますが、今はバスがすごく激しく走っているわけじゃなくて、あるにはあるけど、バス停もあるけど、そこに来るのが一時間に1本だとか、利用価値がな

いですよね。ですから、できるだけ近くのところでどう利用できるかっていうのを、まず公的機関との関わりのあるところを、手をつけ始めることが重要だと思います。

保育園の問題は、保育園や幼稚園で具体的にできることはそれでよろしいと思いますが、特にここのところ電子的なことをやっていますけど、このデータについても、ほとんど私達も年齢が高いですから、70歳ならいいかもしれないですけど、80歳くらいのところは、スマホを使うことができないし、50歳の例えば私達の息子位になってくると、スマホがないと生きていけないって世代で、すごいギャップがあって、そちらの方はうまく使えはできると思うんですけど、あと残っている高齢層っていいですか、そういう層をどういうふうにするか。あと身障者の人たちが、近くに行ける相談できるのが本分で、ものすごく大きい施設を作らなくても、そこに補助的な部分で相談できる部署があれば、すごく使いやすくなってくると思います。

とりわけ、遠いところだと、例えば自動車で行くだけならごく当たり前ですけど、街に行くと自動車が止まれないから行かない。近くのところで何かやる施設というものを利用しあうというのはすごく大切だなと思います。

那珂会長 登録者数は人口減少なので減ってきますが、実際に住民の2割ぐらいしか図書館カードを登録していませんので、残りの8割の中から潜在的な利用者をどのように見つけていくのか。図書館に全く関心がない人はなかなか費用対効果的にあまり努力をしても、関心がないものは関心がないので、難しいですけども、ただこれまで図書館を利用したいができない人が、例えば車で行きたいけども、車が止められないのでなかなか難しいとか、バスが一時間に1本しかないから行けないとか、そういった人たちが一定数いることは事実ですので、そのところの新たな獲得を多分戦略的に、もしかしたら、民間企業の知恵みたいなものを、連携を含めてというところもあるかもしれませんが、どんどん入れて、少し戦略的にやっていった方がいいだろうなということがあります。となるとやっぱりマーケティングみたいなものが必要になってくるので、データ分析は非常に重要になってくるのかなあと思います。協議会の中で御提示していただいているような従来のデータ、この年報に載っているようなデータだけではきっと難しいので、当然図書館の方でデータをいろいろお持ちだと思うので、それを協議会がどこまでできるかちょっとわかりませんが、分析をしていただいて、その結果を年報とは別に、年報の中に盛り込んでもいいですけども、資料として提示をしていただくと、もうこの一時間もない間にいろんな意見が出てきますので、それを見ながら、多分いろんなアイデアが委員の皆さんから出てくると思います。そういったデータ分析とマーケティングの戦略を中央図書館を主体に、作ってやっていく体制を作っていただければいいかなあと思います。

差し当たって、登録率を上げていくための来年度に向けての具体的な案、事業計画というよりはこういう方向性でちょっと取り組んでいきたいという、もし具体的な案が図書館の方でいくつか検討されていたら、なかなか難しいところもあるかもしれませんが、具体的じゃないかもしれないけども、検討しているものがいくつかありましたら、ここで共有していただきたいなと思いますが、何かありますでしょうか。

事務局（サービス係長） 先程来から繰り返になってしまうのと、後からも説明するのですが、電子図書館と小中学校との連携事業において、その利用案内、子ども向けの利用案内を作りますが、その中に親御さん向けのお知らせも載せるつもりです。親御さんに対しては、一般の図書館の利用についても促すようなことを書くつもりでいます。連携事業で子どもが使えるのはあくまで電子図書館の一部の機能です。ほかの一般の方が今使っている機能については、子どもから大人の方まで使えますので、そちらの利用の登録については、普通に図書館の利用者登録さえしていただければ使えますというような形でご案内をして、ぜひ親御さんにも使っていただく、あるいは親御さんと一緒に子どもも使っていただくような案内ができればと思っています。

あとはこちらも本当に微々たるものになると思いますが、清水の方に移動図書館を1ヶ所増やしますので、その地区で今まで図書館が遠くて行けなかった方々に対し、新規の利用者を獲得できればと思っています。本稼働は10月以降になりますが、来月マリナートさんの方でお盆の頃に3日間ほどイベントをやるということで、お声掛けいただいているので、当日はそちらに移動図書館で出向いて、広報に努めてまいります。爆発的に伸びるような施策は難しいですが、中央ではこんなことを考えています。

事務局（教育局次長） 今は多分客観的な状況をまず把握すべきで、データを見ると資料2-1電子図書館で、また後でご説明はあると思うんですけど、スタートの3月が非常に貸出し回数が多かったよね。だけどそれが4月、5月という、貸出し回数が減ってくる。あまり伸びていないという、実際今電子図書がどういう形で入ってきて、それに対して、まずポイントのデータのところから、なぜそうなっていくかの分析がない。それがPR不足に繋がっている。この年代のPRが足りないであれば、小学校と中学校のやつで、それから地域性があって、非常にこの地域の人に何も使ってくれてない、地域性の空白がある。だからそこにPRを導入する。PRをそこに集中するという、そのデータ分析をした方がより効率的に効果的に事業展開をとということをご指摘いただいていると思うので、そういうような視点で今後、対応策の方は考えていくという形でちょっと補足をさせていただきました。

清俊之委員 登録率は高い時でどのぐらいありましたか。2割、3割ぐらいですか。

事務局（サービス係長） 3割はいったことはないかと。

清俊之委員 一つに、登録率をどこを目指していくという思いを持っていらっしゃるのかとか、年代もそうでしょうし、小中学生が一斉に何かのアクションをすればそれなりに上がると思います。その小中学生が義務教育段階が終わったら、充てられたIDがはがされて終わるといふか、その時につなぎ目のところを上手にしていれば、またつながってくるし、スタートした電子図書は、やっぱり興味があって、本が好きで、図書館に関わる方がまずは飛びつくことだと思うんですね。そうすると、どのぐらいの自分が探したものと、その中身の充実っていうのも、離れていかさないための何かの手というのがあるのかなというのは感じています

那珂会長 電子書籍の利用率について、今の話の流れで言うと、コンテンツだと思うので、10代の中学生高校生の利用率が少ないのであれば、おそらく中高生が興味や関心のある内容のものを入れていくしかない。それが受験の関係なのか、血液型判定の関係なのか占いなかわかりませんが、普通の一般の紙の図書でも、YAコーナーに置いてあるものがどういうものが一番読まれているのかは、調査すればすぐわかることですので、それに該当する電子書籍を中心的に入れていけば、一応理屈としてはやったということになりますよね。

ただ、それがうまくいくかどうかはやっぱり一発では多分解決しないので、客観的なデータに基づいた、しっかりした戦略に基づいた何かの実施をすれば、理屈は通るので、これは駄目だから次に行こうということになりますが、それがないと何やっても、多分こういう協議会の中で、何をやっているかわからないという意見が出てしまって、多分図書館の方もストレスがたまってくるのかなあと思うので、やっぱり全体的に客観的なデータに基づいた計画というものを、既に立てられていると思いますが、それを協議会とかで提示していただくと、わかりやすいかなと思います。足りないところはまた委員の皆様から指摘がもらえると思いますので、そういったことを今後全てではないにしても、一部のサービスだけでも、分析した結果まで、客観的なデータを協議会の中で共有していただくと、よろしいかなとは思っています。

堀川委員 事業計画等について聞きたいですけれども、前回の12月の協議会で話させていただきましたが、今年度の図書館の課題は何でしょう。課題は多分いっぱいあると思いますが、そのうち、例えば主なものを一つ二つ挙げるとするならば、どういうものが課題であって、それに対してどのような運営をしていこうと考えているとか、あるいは目標みたいなものはあるのでしょうか、その辺を教えてください。

事務局（中央図書館長） まず一つ思うのは全部で12館ございますが、老朽化というのは、まずハード面ですね。ご承知のように葺科やりました。中央もちょっと前にやりました。今後、どこを大規模、あるいは中規模やっていこうか。そのレベルにないにしても、今あちこちで痛みが出ている状況がございますので、そこは後でお話させていただきたいと思いますが、図書館の今後のビジョンを考える中で、あわせて対応していきたいと思っております。

それから私が思うのは、お客様あつての図書館ではございます。当然そのお客様にも満足させるのは、職員になります。今図書館全部で230人程の結構大きな組織ではあります。なかなか私の目が行き届かないところもございますが、職員のスキルアップは、日々、やっぱりやっていかなければならないなと思います。まだちょっと具体的にその職員の研修、どんなふうに進めていっていかってというのも、まだ全然なんですけれども、一つの課題としては捉えております。

清尚子委員 5月に興津図書館でバリアフリーを取り上げていてすごくいいなあと思いました。こういうのも後から新聞で知るのもいいですけど、各館で窓口の人が少し手の空いた時に、「こういうのがありますよ」というアピールも必要かなと思います。

清水に移動図書館がなかったというのも心配していましたが、今度できるということで、先ほど千頭和委員が言っていらしたけれど、生涯学習センターもそうですけど、移動図書館が田町小学校に行っていますよね。そういうのも自治会のチラシなどを通して、もうちょっとアピールしたらどうかなって思います。

宗野委員 御幸町図書館の20周年のイベントは、借りに行って初めて20周年なんだと知ったぐらいなので、逆に言うと、図書館に行っている人にしか届いてないかなあと思いました。特にあそこの場所は街の中なので、もう少し何か、さっき市の職員に、なんか20周年のやるとか言っていましたが、もっと大きくやって、目立つような看板がいいのかどうかかわからないですけど、図書館に来ない人にも、もう少しアピールした方がいい。ガシャポンみたいなやつで、どんな本がというのは面白いし、子どもだったら楽しいなっていう企画だったので、図書館に来ない、あまり来ないという人たちにも、実はこういうふうに行っているということをもう少し、手段は看板がいいのか、市の広報で見た気がするけど、市の広報を真剣に読む人もそんなにいないと思うので、何かしら市役所の中でももう少し何かやるとか、何かいろいろ手段はあるのかなあ。テレビでCMを流せとは言わないですけど、登録率を上げるのにも、図書館でイベントがあるからそこで借りてみようっていうきっかけのためにもイベントをやっていると思うので、そのイベントの周知をもう少しみんなに届く方法を考えた方がいいのかなと、せっかいい企画をやっていると思います。

那珂会長　　今図書館を利用している人だけしか情報が共有されない、一生懸命図書館の職員の方が頑張っているとしても、今いる利用者の人たちだけしか満足させられないというところが、非常にもどかしいというか、それはそれで僕はいいと思いますが、やっぱり先ほど来から登録率をもう少しという話になると、やっぱりそれだけではいけないのかなと思うので、今やっていることに何か大きく負担をかけてまでやる必要があるかどうかというのは、日常業務のことを考えると現実的にはなかなか難しいのかなって考えたときに、これまで図書館でやってきたいろんな取り組みを、今年も計画にある通りやっていくことを、いかに外にアピールしていくのかということだと思います。例えば、SNSを使った発信。ただSNSはそのままインターネットで全国にいくので、言ってみれば関係のない人にまでいく可能性があって、なかなかそこだけじゃ難しいのかなってなると、やっぱりロコミだとかあるいはもっと言うと地域との連携というのが何より大事なあとと思っていますので、それこそ足で稼ぐってところがあるかもしれないですけども、先ほどお話があった自治会との連携だとか、公民館との連携、生涯学習センターとの連携だとか、連携を強めて行って、そこでPRをお願いするっていうところ。周りを巻き込んでいくというか、周りをお願いするってところをもう少しされてもいいのかなと、今お聞きしていて個人的には思いました。

豊田副会長　　先ほどからどのようにして利用者を食い止めるかとか、あるいは利用者を増やすかという話が出ていますし、また統計の分析という話もありますが、多分、今すごく必要とされていることは、これは後の5番で将来ビジョンの話が出て、そこで言及されることなのかなとは思っています。「こちらの方向へ向かっていますよ」という目的をはっきりさせた上で、それに向けてこういうような計画がありますと、その計画がどのくらい達成できたのかということ、こんなふうに評価しますというような組み立てのようなもの、かっちり作る必要はないと思っていますが、世の中もどんどん変わってきますから、いくらかっちり作っても世の中の動きの方が速いので、ガチガチに固めちゃうと良くないとは思っていますが、それでも大体こっちの方向へ向かっていますよ。私達はこういうことを大事にしています。それを図るための評価の方法として、私達はこんなものを持っています。そこから見たときに、統計はこうなっているので、こういうふうな状況だと考えています。というようなことを説明できるような体制にしていけることが、大事なのかなと思っています。これは自分自身が図書館にいたときにそれがちゃんとできてなかったということについての反省も込めて話をしています。例えば、新規の利用者の話が出る一方で、今利用が段々減っているよねというような話がある。マーケティングの話が出ていますが、マーケティングの中で非常に重要なのは、これから潜在的な利用者として想定している人たちをどのように区切って考えるということだと思います。

それは年代別という区切り方もあるし、どの地域に住んでいるかという区切り方もあるし、何を求めているのだろうか、例えば障害があるから、その障害者というようなことで一つ区切りができるかもしれないし、でも今多分一番ちゃんと把握しておく必要があるのは、まだ利用していない人と、それから現に利用している人ってことだと思います。まだ利用していない人に向けてやるべきことと、現に利用している人に向けてやるべきことは違います。でも両方やらなければいけないと思います。どちらに重きを置くかは別として、現にその利用している人がどうなっているのかを知る上では多分、登録率は非常に重要で、登録率は4年に一度更新されているのですか。今もそうですね。そうすると、4年ごとに更新してくれる人とくれない人がいるわけですね。今まで自分もあまりそこを注目したことがなかったですが、多分登録しない人というのが結構重要で、再度みんな登録してもらうようにするにはどうしたらいいのだろうかというのを一つ考えなければいけないというように思います。登録すればいいという話ではなくて、登録してもらって、さらに実際利用してもらわなければいけないですけどもでも、それが一つ。

その一方で登録していない人たちに対しては、新規で利用してもらうようにはどうしたらいいのでしょうか。地域別で見えていった場合どうなのでしょう。年代別に見たらどうでしょうみたいなことを考えていく必要がある。

二つ作戦を立てないといけないなっていうのはある。現に使っている人についても、使わなくなる理由はきっといろいろあると思うので、その使わなくなる理由って何だろうなっていうのも把握していかないといけないだろうし、使ってくれる人については、今度は口コミでも何でもいいのでファンを増やしてってもらいたいということがあられるわけですね。誘ってほしい。それは例えばボランティアをやるっていうような形もあるかもしれないし、友の会的なものに入っていて、そこから引っ張ってもらうということもあるだろうし、既に利用している方については、その利用の度合いやレベルをだんだん高くして行って、図書館の協力者になっていただく。そういうような段階的な把握、作戦が必要なのかなというふうに思います。すごく大雑把に言いましたけれども、何かいろんな話をごちゃごちゃになると、かえって何か見通しが良くなってしまわないので、そういう見通しを持った上で考えていく必要があるし、そういうものをいただくと私達も議論しやすいだろうな、そんなふうに思います。

那珂会長 全部まとめていただいたような気がしますけれども、やはり議論をより効率的に、効果的にしていくためには、豊田さんがおっしゃったような、後で将来ビジョンのところを出てくると思いますが、やっぱりビジョン、ミッションがあって、それをクリアするために、それぞれの館ごとでやっていくタスクがあって、その評価基準はこれですというような、本当にまさに簡単なもので構わないと思いますが、逆に難しすぎると共有できなくなるので、全員に

共有できるような、僕のイメージですけれども、僕が民間企業で働いていたときのイメージですが、本当に会社のホームページに出ているくらいの、誰でもわかりやすいような、ビジョン、ミッションというのをまず議論していただいて、全てそれに基づく具体的な計画、戦略というのを立てていただいて、それを示していただいた方が議論がしやすいし、多分図書館の皆さんもそれに基づいて説明していけば、全て説明ができるよという体制になれば、すっきりすると思います。

今、委員の皆様からいただいた意見がいろいろありますが、それを集約して取捨選択をして、静岡市立図書館としての方向性というのを、すぐには立てられないので、今年度はそういったことも少し検討していただきながら、最後の方の協議会では、そういったものを少しお聞かせいただくことができたかなと思っております。

では、議題を進めさせていただきたいと思います。また、この件に関してご意見等々があれば、後ほどお時間があれば口頭でお話いただきたいし、アンケート用紙はないのであれば、また個別におっしゃっていただければと思います。

(3) 電子図書館の利用状況について

事務局（サービス係長） 今年3月に開設した電子図書館の利用状況等について報告いたします。資料2-1「電子図書館の利用状況について」をご覧ください。

「1 基本状況」については記載のとおりです。6月末時点での提供電子書籍の数は、電子書籍が1,138点、青空文庫が500点、静岡資料が5点です。

次に、「2 利用統計」ですが、開始した3月は各数値が高くなりましたが、4月以降はほぼ横ばいで推移しています。記録を見ますと、ほぼ毎日ログインをしてくださっている利用者もいらっしゃいます。新刊があまり増えていないという状況があります。今後定期的に増やしていく予定ですが、新しい本がないということで利用が増えていない傾向があると感じています。

「3 電子図書館利用者アンケート結果」ですが、資料2-2をご覧ください。利用開始直後の本年3月22日から4月21日の1ヶ月間、電子図書館を利用している方を対象にアンケートを行いました。回答件数は157件でした。

年齢をお聞きしたところ、30歳代から50歳代が多い結果となりましたが、70歳以上の方でも使ってくださっていることが分かりました。また、(2)の結果から、既存の図書館を「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」の回答者数が、回答者全体の約16%で、一定の新規利用者がいることがうかがえます。

(5) 電子図書館の良いと思う点については、図書館に来館しなくても利用できること、24時間利用できることが上位となっています。この辺りは想定通りという印象です。

(6)、(7)で、利用者それぞれのご要望を聞いた上で、(8)で自由記載でもご意見をい

いただきました。さまざまなご意見をいただいた中で、始まったばかりの電子図書館というサービスの今後に期待するという前向きな、激励のようなご意見を多数いただきました。

利用者アンケートは今後も定期的の実施し、利用者の声を拾いながら電子図書館の運営に活かしていく予定です。

資料2-1裏面、「4 今後の事業予定」をご覧ください。(1)小・中学校との連携ですが、市内の静岡市立小・中学校の児童・生徒、教職員全員に、電子図書館のみ利用が可能な専用IDを附番し、学習端末からしずおかし電子図書館が利用できる連携事業を、9月1日から開始します。事前に学習端末に電子図書館をブックマークし、附番した専用IDからログインすることで、電子図書館内の児童書読み放題コンテンツや青空文庫、静岡資料を自由に読むことが可能になります。授業での調べものや朝読書など、学校現場でも電子図書館を活用してもらい、ICTを活用した読書活動の推進にも取り組んでいきたいと考えています。

専用IDの利用方法については、子どもにも分かりやすい案内動画を作成して、子どもたちの利用を促進していきたいと思います。また、児童・生徒用の利用案内に保護者宛ての通知も記載し、一般の電子図書館が利用できる図書館の利用者登録についても、働きかけていく予定です。

資料の最下段、今後の事業予定、(2)静岡資料の作成についてですが、今年度中に静岡市に関する資料を20点、デジタルアーカイブ化し公開する予定です。現時点でまだ公開しているものはありませんが、できるだけ早く資料を公開したいと考えています。

那珂会長 今のご説明に対して、委員の皆様からご意見、ご質問ございましたらよろしく願います。

加藤委員 私も電子図書館が始まったのは知っていますが、まだ登録はしていません。でもどういふものがあるかは、子どもの本といったところで、題名を見てこんな本が入っているということを知りましたが、やっぱり私の図書館の利用目的は、もちろん自分の読書とともに、読み聞かせをしていったり、それから科学遊びをしていったりするときの資料もやっぱり手元にないと活用できないという理由があって、やはり電子書籍を使うとしたら自分の利用目的で小説なり、他のものを利用するかなと思いました。

あと子どもの絵本で、自分が利用するとき、やっぱりスマホではよく見られないと思いました。タブレットやパソコン画面上じゃないと利用するのはちょっと難しいと思って、ただ動画じゃないけれども、拡大はできるので、拡大文字の書籍はありますけれども、そうじゃない本も拡大で読める、ただやっぱり拡大すると出てくる部分が少なくなるので、読み

づらいなという実感がありました。それと、絵本はやっぱり見開きじゃないと、ちょっと楽しめないというのは本当にありました。

ただ、お母さん方で、小型版の本を何冊か私は常にバッグに入れて、電車とかバスとか外で子どもがちょっとぐずったときは、バックから開いて、楽しむときがあります。そういうときに、電子書籍で入れておいたものは小さいですので、本を2冊3冊バックに入れるのではなくて、タブレットやスマホで、電子書籍を利用する方は多いのではないのでしょうか。あとはやっぱり資料の充実がより良くなれば利用率は本当に高まるのではないかなあとと思っています。

那珂会長 やっぱり電子書籍もそれはそれでいい部分と悪い部分があるので、電子書籍を入れたから、問題が解決するとは限らないってところで、デメリットのところも少し考慮していただければと思います。多分子どもの脳の発達だけで考えると、あまり小さいときから電子的なものを見るのは、本当は脳の形成に良くないとは思いますが、だから、小学校で学習端末を一人1台入れているということも本当はいいのかどうかなのか、僕もよくわからないところではありますが、僕の大学の学生に、Chromebookをよく使ったか聞いたら、「あんなものは使わない。使うのが面倒くさい」と即答をされました。そうなんだと思いつつながら、結局、子どもたちの学習端末の中で「しずおかし電子図書館」にアクセスできるということですので、となると学習端末を使ってくれないと、そもそも何の意味もないということですので、そういうシステムを作ったので、やっぱり結局は利用が伸びたのか伸びてないのか、伸びていないのならば、なぜ伸びていないのかというのは、アンケートをこれからもとっていただきたいと思っています。

これは本当に僕の想像ですけども、意外と学習端末は学校の中でも使われていないのかな。学校の中にいないので、勝手に言っていますけど、僕の想像ですみません。

清俊之委員 タブレットを一人1台端末でGIGAスクール構想がスタートして5年目です。当初は本当にキャビネットに入りっぱなしでした。教員も触れる教員は触り始めるけども、ある年代より上は、もう存在すら意識しないというのが1年目、2年目でしたね。でも今は驚くほど使っています。今は長いサイクルの過渡期だと思います。その意味は先生がおっしゃるとおり、子どもにとってタブレットを使った授業とか、タブレットに向き合う日常とか、そういうものはどういうふうに影響してくるかという答えは、数十年先にどういう大人が育つかというところですかね。

だからそこは危惧するところはあるながらも、今どんどん使っているという状態。5年前に使い始めた子どもたちは、「タブレットなんか触ってなかった」と言いますが、今の小中学生は驚くべき日常の使用頻度というか、毎時間いろんな教科で使っていたり、生徒会

の活動でも使っていたり、教員も「魂売ったか」っていう年代の人たちも使っていますね。学校の中で一番使っていないのが授業をやらない校長職。けどもう日常的な使用はすごく進んでいると思います。

その上でやっぱり電子書籍はすごく画期的な取り組みだと思いますし、IDを振られた中三の子たちは5年前と同じで「電子書籍をChromebookで見た?」と言っても「見ちゃいないよ」という声が半年経つと出てくると思います。だとすると半年のうちに、義務教育が終わった子たちを繋ぎ止める手を打っていただかないと、そこがまた勿体ない世代が出てしまうと思います。小中学生に電子書籍がどういうふうに影響しているかというのは、ぜひ追跡でアンケートをしていただいて、始まって年度内に1回でも、半年で1回でも、次の年度でも、もしかしたら内々の指定校みたいな形で協力校みたいなのを決めて、どういうときに使っていて、どういう声があって、使いやすいのか使いにくいのかとか、どういう要望があるのかとか、そういう子どもの声を吸い上げていくことが、始まったところを繋ぎとめていく大事なところかなと思います。とても面白いと思いますが、紙の本の学校図書館の使用率がどう変わっていくとか、朝読書のときに見ていくとか、それに1冊の本に触れた子が、続いて電子書籍に満足していけるのかどうかとか。そういうところも含めて保護者宛の欄を設けたんですけど、多分この面倒見るのは学校の職員ですよ。IDを振って使い方を説明してこうやってやりなよとやっていくので、家まで届かせるためのリーフレットみたいなものとかそういうものをやってかないと、やっぱり学校と子どもと職員と子どもともツールとして、「学校で使い始めたよ」で終わっちゃうのも勿体ないと思うので、保護者の皆さんへ周知し、今、「テトル」というメール配信システムを各学校それぞれ持っているので、保護者向けにこのデータを配信してくださいと言っただければ、各学校が保護者に送ることができます。

いろんな手を使って逃がさないということが、せっかくこれだけのことをうった以上大事なことかな。だから先生のおっしゃったことを否定するのではなくて、答えはこれからだと思います。使った答えというのは、やっぱりちょっとおっかないかなって、いうのは図書館の話とちょっとずれますが、やっぱり電子書籍もそうだし、タブレットを使って書くこととか、読むこととかっていうのは、自分の手で書いたりとか、そういう考えをまとめるときに書く作業とかどうなのかとか、意見の交換するときこういう場でも、対面してちゃんと自分の考えとかを伝えることができるのかとか、カチャカチャと入力するとモニターにバーっといろんな意見が出てくるので、自分の声を発信するのが苦手な子にとってはやはり大事なことなんですけど、でもそういう苦手感を乗り越えるような手間っていうかそういう経験もあってもいいと思うんですけど、そういうところを含めると課題は多いので、電子書籍なんかもこういう導入の仕方をしたときに、やはり使用の仕方、目に優しいとかって謳っていか

ないと叩かれる時代なので、そういうところも含めてアイデアを入れていただけるとありがたいなど。

那珂会長　　すみません。認識不足でした。言い訳をさせていただくと、聞いた学生は4年生の学生で、彼らが高校生のときは多分始まりの時だったと思います。1年生に聞いたらまたちよつと変わってくると思います。

清尚子委員　　今、学校図書館の話が出ましたが、学校図書館を考える会の主催で、「学校図書館のABC」という企画をやりました。熱心な司書さんたちは、子どもにどうやって本を薦めようか常に考えていて、いろんなビブリオトークの実践をしていただきましたが、そういう姿勢はすごくあります。

学校図書館にはChromebookが届いてなくて、学校司書が全然触ったことがないという状況でした。それを、今年度から試行で、学生が年々少なくなって余ったChromebookを学校図書館全部に配置して、学校司書も使えるようにして、紙と電子のベストミックスというのを進めていくという施策が、3月に私達が教育長に招かれて、懇談会をしたときに発表があって、今徐々に進んでいると思います。

学校司書さんをうまく使ってくれれば、Chromebookを使った授業を図書館でできるようになってくると、もっと電子書籍とか、いろんなツールの使い方、そういうのを教わって、GIGAスクールが看板だけじゃない、中身がおとなはもう危ないから規制ばかりしているけど、そうじゃなく、便利なところをどんどん子どもに教えてあげて、情報リテラシーを育ててあげたいと思います。学校図書館もそうですけど、これと同じときに吉田町の中学校の司書さんに発表していただきましたが、紙の本を読まない子は電子も読まないと言われて、結局その読み放題の年間2万8千円ぐらいの学校独自で使っている電子書籍をもうやめましょうっていうことで、失敗という話も聞きました。やはり積極的に学校でも使用していただかないと成功しないと思います。学校でも積極的に電子書籍の良いところをいっぱい教えてあげてほしいと思います。

那珂会長　　ネガティブな側面もあると僕の方でお話してしまいましたが、新しく始めることにネガティブな側面ばかり伝えてしまうと、萎縮をしてしまうので、良い部分を積極的にPRして、やっぱり僕らの世代の感覚で、なぜ今時の若い人はスマートフォンしか見てないだろうとか、頭をかしげるところがありますが、でも今の若い人はそれが当たり前になっていますので、そういった意味では、10年たてば10代の人たちも20歳になっていくわけですけども、常に若い人たちの情報の取り方というか、摂取の仕方、それから今情報リテラシーというお話がありましたけれども、それに加えてメディアリテラシーみたいなものも、ま

ずはおとなの我々が勉強して、10代の若い人たちのそういったメディア、あるいは情報の接触の仕方を学んで、それに合った発信というのを、あるいは教育をしていかないといけないのかなって、一部分ではあります。もちろん当然それだけではありませんが、そういった中に図書館がどれだけ入っていけるかっていうことで言うと、やっぱり学校司書の存在は大きいのかなと思います。静岡市は学校司書は全ての学校にいませんけど。

事務局（サービス係長） ほとんどの学校はいますが、山間地とか一部掛け持ちで回られる学校司書さんもいらっしゃいます。

那珂会長 学校司書を増やしていった方が本当はいいと思います。結局、常時いるってことでもないんですかね。

清尚子委員 司書はだいぶ増えてきましたが、学校のクラス数によって勤務時間にだいぶ差があって、それも問題です。今学校司書は増えていますが、協力貸し出しを静岡市立図書館との連携ですよね。それを進めているんですけど、協力貸出しの状況をちょっと聞かせていただけますか。

事務局（サービス係長） 年報46ページに学校の協力貸出サービスということで載せてあります。こちらは小中学校、あるいは指定小中学校および市立の高校を対象に調べ学習用の資料を貸し出すサービスになります。もう一つの団体貸出しという読み物を貸し出すサービスがありますが、それとは別でお考えください。こちらは20冊5分野まで貸し出せます。各単元に合わせて、ファックス等でご依頼をいただいて、それを用意します。実際にこちらからお伺いすることはできないので取りに来ていただく形で実施しています。過去の数値は掲載しておりませんが、貸出冊数や貸出学校数の増減がそんなに激しいわけではなくて、大きな数値の変動はありません。

清尚子委員 いろいろ努力されているのは聞かせていただいている、今まで何週間前に言わなければ駄目だったのが、「相談してくれば短い期間でもできる場合もありますよ」とどんどん変わってきています。一番ネックなのは、配送システムがないということで、なかなか取りに行けない学校もある。それを改善努力していただければ、そういう、本と電子とミックスした、電子もキーワードを入れなければいけないし、キーワードを見つけるためには、学校の本で探していくというのも重要だし、そういうふうだと思います。

那珂会長 ぜび電子図書館の導入の取り組みとあわせて、紙の資料の利用も促すような働きかけ、取り組みも行なっていただきたいというふうに思います。

(4) 藁科図書館リニューアルオープンについて

事務局（藁科図書館長） 藁科図書館は生涯学習センターとの複合施設として平成元年に開館して約35年が経過し、老朽化に伴う設備機器等の更新が必要となったため、令和5年5月から休館して大規模改修を行い、令和6年4月20日土曜日に、リニューアルオープンしました。リニューアルにあたってのコンセプトは『どの世代にとっても利用しやすく、藁科地域の良さが感じられる図書館』です。

改修の計画時から要望し、照明のLED化やトイレの洋式化、電気設備等の機器更新の他に、藁科川の風景を楽しみながら読書ができる読書席を新たに6席設け、腰壁には静岡市産材の「オクシズ材」を使用するなど、藁科地域の良さを生かした館内となりました。また、おはなしコーナーは小さいお子さんが入りやすいようにスロープをつけて段差を解消することができました。

一方、自分たちでできることとして、開館準備段階から藁科の職員全員で話し合いを重ね、藁科地域のすべての世代にとって利用しやすく、居心地の良い図書館にするために、書架のレイアウトや配置、サービスの方向性を決めていきました。いくつか挙げさせていただきますと、一般図書のあるコーナーにはゆっくり読書をしたい方のためにソファや大きめの椅子を配置しました。

学生にも来館してもらえよう、個人キャレル席を3席用意し、自習も可としてその旨を明記しました。この席のある雑誌・新聞コーナーは、大きな窓が開放的な雰囲気を作り、好評を得ております。

利用者の動線を考え、育児に関する資料や子ども向けのCDは児童コーナーに、高齢者の利用が多い文庫、大活字、朗読CDはまとめて同じ場所に配置するよう変更しました。

他にも、館内サインはユニバーサルデザインを意識したフォントや色使いにしたり、館内全体を蓋つき飲み物の持ち込み可にするなど、ひとつひとつはちょっとしたことですが、来館した方が快適に心地よくすごしていただけることを心がけました。

裏面に、開館初日と翌日の2日間に改修してよかった箇所を伺ったアンケートの結果を載せてあります。好意的なご意見がほとんどでしたが、これからの課題になるご意見もいくつかいただいています。

また、リニューアルオープンの記念イベントとして、『Night Library～図書館に泊まろう!～』と『わらしな子ども寄席』を行いました。どちらも申込みを多くいただき、盛況のうちに終了しました。特に『Night Library』には、定員5組のところ113組の応募をいた

だき、抽選に外れてしまった方からは第2弾を開催してほしい、といったご意見もいただきました。地域の民話にまつわる公式キャラクターも作成し、これからの広報活動に活躍させていきます。

これからは、生涯学習センターとの複合施設であることを生かし、共催事業にも力を入れていく予定です。8月には『わらしな子どもアートラボ』として「持ち運べる本箱づくり」を、来年1月には「絵本に出てくるパンを作る料理教室」を生涯学習センターとの共催で企画しています。

開館時には、藁科図書館前の国道362号沿いの郵便局や銀行、スーパーやドラッグストアなど約20店舗に開館を知らせるポスターを掲示していただきました。そのかいあってか、4月20日の初日は410人、翌日21日は381人の入館者がありました。開館の様子はケーブルテレビや静岡新聞にも取り上げていただいたことで、その後も平均で4月は291人、5月253人、6月244人と、改修前の平均約200人に比べ、利用が増加していると感じています。新規のカード登録者も、改修前の令和4年度が150人ほどでしたが、開館した4月20日から6月末までの2か月半で、91人の登録がありました。平日夕方は中高生の姿を見かけることも増えてきており、このまま利用が増えるよう、これからも広報に努めたいと思います。

これからも藁科・服織周辺の地域の皆様に長く愛される図書館となるよう、職員一同努力していきます。委員の皆様にもぜひ一度藁科図書館にお越しいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

那珂会長 ただいまのご説明に対しご意見ご質問がございましたら、お願いいたします。

豊田副会長 要望ですけど、藁科で協議会を開催する機会を作っていただけるとありがたいなあと思います。検討してください。

那珂会長 改修前の藁科には何度かお世話になったことがございますが、本当に生涯学習センターも含めて、地域の人に愛されている図書館だなあっていうことは常に感じていましたので、生涯学習センターとの連携というのは本当に素晴らしいことだと思います。ただ改修工事後、利用者も相当増えたということで、かなり図書館の運営については非常に大変な思いをされていることだと思います。ありがとうございます。

ぜひ協議会は藁科図書館でしたいと考えておりますので、委員の皆様いかがでしょうか。ちょっとバスに乗って行きますけど。

加藤委員 行ってきました。静岡市内の図書館で山河にある図書館って薬科だけだと思います。エレベーターも新しくなって、皆さん楽しみに待っていた方が本当にいらっしゃるのではないかなと思います。老朽化の改修というのは大変かとは思いますが、やはり市民にとつたらトイレもきれいになってというのは嬉しいことだと思いますので、財政厳しい折だとは思いますが、改修というのは課題になっているようですので、利用者にとって喜ばしく思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

清尚子委員 さっき小さなことって言ひましたけど、書架サインはすごく大事だと思います。そういうのがユニバーサルデザインになったということも、すごく大きなことだと思います。見やすいかどうか、探しやすいかというのは、利用者にとってすごく大きなことなので嬉しいと思ひます。チラシもいろんな店舗にドラッグストアとか郵便局に撒いたということも効果的だったのではないかなと思ひます。頑張ってほしいと思ひます。

那珂会長 ぜひ頑張ってくださいというのも変ですけど、引き続き住民に愛される図書館でいていただきたいので、僕が言うのも何ですけど、ご尽力いただければと、協議会としてもいろんな形でサポート支援ができたらなあというふうに思ひますので、逆にこういうことをしてもらいたいということがありましたら、またおっしやっていたきたいなというふうに思ひます。

最後の議題となります図書館の将来ビジョンについてのご説明をお願ひいたします。

(5) 図書館の将来ビジョンについて

事務局（中央図書館長） では中央図書館の私のほうから、少しお話をさせていたきたいと思ひます。これにつきましては、「できました」ではなくて、「これから作っていきます」というお話でございます。と申しますのは、先ほど来ありますように、図書館を取り巻く環境ですね。一つは、人口の減少ですとか、あるいは少子高齢化、あるいは子どもの図書離れ等々そういったある種ネガティブな環境の変化というものもございます。

また一方で、図書館の抱える問題としまして、施設の老朽化、それに対する大規模あるいは中規模の改修の必要性といったアセットマネジメント問題等々がございます。さらには、人口の減少等々を踏まえて、図書館の適正配置。現在 12 館ありますが、これが 12 館のままで良いのか、増やすのか減らすのか。環境とかアセットの観点から、一つの課題にはなっているとそんな状況がございます。

そして何よりも静岡市の図書館として、今後どのような図書館を目指していくのか、図書館のサービスのあり方そのものが問われているのだろうなという中で、今まだ明確なビジョンというものが形としてない状況でございます。アセットをやるにしても何にしても、そ

の元となる考え方のやっぱりビジョンが必要であろうというところから、その策定に取りかかろうというところでございます。

策定につきましては、図書館職員でプロジェクトチームを作ります。当然職員だけの考えでは、偏りも見られますので、外部有識者の方からの意見というのも当然必要になって参ります。その際は、もちろんこの協議会の委員の皆様からのご意見をぜひ賜りたいと考えておりますので、その節はよろしく願いいたします。さらに場合によっては、市民アンケートの方の実施などを考えておりますけれども、いずれにしましても、6年度中には素案は示したいなど、非常にタイトなスケジュールですが、考えています。

次回の協議会が年末か年明け1月かちょっとそこは厳しいものですから、協議会のお示しというよりも、個別にもしかしたら郵送等で、こんな形で今やっていますというふうなお知らせになるかもしれませんが、いずれにしましても、何らかの形ではお示したいなど思っております。このビジョン、一番上には静岡市の4次総がありまして、さらには教育振興基本計画に繋がってまいりますので、それらと連動させたものを作ってまいりたいと思っております。皆様もぜひご協力をよろしく願いいたしますというお話です。

那珂会長 質問というか確認ですけれど、図書館のビジョンの策定をこれから進めていきますというお話をいただいて、ぜひ策定いただきたいと思っておりますが、これはいわゆるこの図書館の基本計画とはまた別で、連携しているのはどうか。もちろんビジョンを作っていたら、基本計画をいじったりというところまでは想定してないですか。

事務局（教育局次長） 結局電子図書をやってはいますが、今後、将来的に静岡市の図書館をどうしていきたいよっていう、まずそこの一番の骨幹となるところがないというところが一番問題として、まずそこから入らせてもらう、そういうようなイメージで思っています。そういった中で、現在の状況を客観的に見られるデータを踏まえつつ、その中でできる部分のところに押し込むという形にはなろうかと思えます。そもそもその考えの一番の頭にくるところが、今ふわっとしている状態ですので、そこをもう少し、リニューアル化していきたいなど思っています。

堀川委員 前回の視察で、名古屋市とか安城市とか行かせていただいて、その図書館ではこういった基本ビジョンですとか、基本計画があるということがありまして、こういった形でのビジョンを作成するのは大変いいことで、私も大賛成で、ぜひとも頑張っていたきたいなというふうに思います。

期限がちょっと今年度中というのはタイトじゃないかという気はするので、そこはもう少し長い目で見てもいいのかなど、私は個人的には思っています。その中で、当然ながら現

状分析するということ、それから市民の声を聞くということ、それをあわせて課題を整理していただいて、中長期的な視野に立って、目指す図書館像みたいなものをぜひ立てていったらいいなというふうに思います。

一点、これを作成するにあたって今プロジェクトチームを作るというような話もありましたが、そもそもねという話になるんですけども、図書館というのは、小学校とか中学校と同じように、教育機関である教育施設ですよ。今日次長がいるのでお話したいんですけども、小学校中学校は教育施設であって、学校教育課というところがあって行政を行っていくっていう中で、図書館は教育機関なんだけれども、図書館行政を行うのがどこなのかっていうのが、非常に明確になっていない。他の市では、生涯学習課ですとか社会教育課というところがあって、そこが図書館の行政を担っていくようなイメージですけれども、静岡市の場合は今のことで考えると、中央図書館管理係の一部とサービス係の一部がその図書館行政を担っているような組織体系になっているってことがありますので、今言ったような将来ビジョンを作るにあたっては図書館の企画ですとか、振興を行うような組織的なもの、例えば係ですとか、いきなり課というのも難しいと思いますので係ですとか、担当ですとか、そういったようなものを作って引き継がなきゃなと思っておりますので、その辺はぜひ検討していただきたいなというふうに思います。

清俊之委員 今お話を伺って、静岡市は図書館をどういうふうにしていきたいのか、そのビジョンの大本を考えるのは、とても大事なことだと思います。先ほどの登録率もそうだし、各館が一生懸命考えていらっしゃる事業計画、いろんなイベントに関わる。自分もこれを送っていただいて見たときに、面白いなあというのがありますが、静岡市の図書館として何を指すので、こういうイベントのような企画を考えたのかとか、例えば認知症のことを高齢化に向けて企画して図書館として本と繋げる計画を考えたんだということが、例えばナンバーの8番と繋がっているのがこのイベントだとか計画だとかその基にずっと上がっていくってとても大事だと思います。

学校も食育とかICTとか、いっぱい目標があふれていて、年間計画も作るし、だけど結果として多すぎて、意識の中から消えてくっていうところがとても多いです。ですのですごい労力もかかると思うので、本当に根幹に関わる場所、すごく多岐にわたって詳細じゃなくてもいいので、拠り所になるようなものがドンッてあるだけでも違うのかなと感じました。大変ですが、ぜひお願いします。

清尚子委員 瀬名地区でも本屋さんが一軒閉店してしまいましたが、今、本屋さんも少なくなっているし、駿河区には南部図書館と長田の二つしかないし、清水もなかなか、中学校区に一つというような理想にはまだ届かないと思うんですけど、そういう中で、図書館ってすご

く重要な市民の教育機関だと思うので、ぜひそこを踏まえてビジョンを立てていただきたいと思います。

豊田副会長 とても良いことだと思っております。前からそういったものが必要じゃないですかと僕は申し上げていましたので、大変嬉しく思っています。外部環境の変化という中では、先ほど館長さんがおっしゃっていただいた他にも、例えば県立図書館が新しくなることは大きいファクターだと思いますし、いろいろと何て言うんですかね、住民が自主的に、かつてであれば地域の家庭文庫ということになるんですけども、今だとシェア型図書館っていわれるような私設の図書館みたいな、あるいはネット上でもいろいろな動きがあります。そういった全体の状況を見ながら考えていく必要があるだろうなと思っておりますけども、先の発言でも申し上げたように、かちっとしたものを作るというよりは、大きい流れの中でうまく泳いでいくための推進力になるようなものを図書館のスタッフの皆さん全員で共有できる形でお作りになられていくのかなというふうに思います。

那珂会長 本当に皆様の心の拠り所、仕事の拠り所になるような、理想を言えば、図書館の利用者から住民の人たちの生涯の中の一つの方向性みたいなものを図書館を中心に作っていただくとうれしいなあとと思います。教育ってところが一つ柱かなと個人的には思いますし、また、これは今、思いついただけですので、参考にしないでいいと思いますが、対話とか、何か時代の流れに乗って、しかも中長期的な、一つ土台となるようなキーワードをいくつか作成をしてもらって、その中で、職員の皆様で共有をしながら、丁寧に作っていただきたいと思っておりますので、特に次の協議会で、何か出来上がったものをではなく、もう少し長いスパンを考えていただいて、途中までの段階のものでも、ご報告をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは時間になりましたので、以上をもちまして議題の方は終了させていただきたいと思っております。

7 閉会